

# The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、  
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、  
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

**K** 公益財団法人  
**かめのり財団**  
Kamenori The Kamenori Foundation

2015年11月 No.20

にほんご人フォーラム 2015 各国の民族衣装を着てファッションショー



アイスブレイクで打ち解ける

## 今号の内容

- ◇ 国際交流事業助成
- ◇ かめのりスクール 2015
- ◇ 大学院留学アジア奨学生
- ◇ 海外日本語教育サポート事業  
にほんご人フォーラム 2015  
ベトナム中学生日本語キャンプ
- ◇ 高校生短期交流プログラム
- ◇ 第2回高校生カンボジアスタディツアー
- ◇ ISAK サマースクール 2015

## 国際交流事業助成 助成事業決定

本年度は、次の10件の事業に助成をしました。

今号では、本年度助成を行った一部の団体の事業を特集号にて紹介しています。是非、ご覧ください。

〈一般公募〉平成27(2015)年度 助成事業一覧		(敬称略)
韓国民話公演と日本語を学ぶ韓国小学生交流	平間わんぱく少年団	
タイの次世代に伝える福島の経験と教訓プロジェクト	特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター	
「話してみよう韓国語」東京・中高生大会 2016	「話してみよう韓国語」東京・中高生大会 2016 実行委員会	
ミャンマー・フレンドシップ・プロジェクト	公益社団法人ガールスカウト日本連盟	
第6回全国高校生日本語スピーチコンテスト	特定非営利活動法人エデュケーション・ガーディアンシップ・グループ	
南北コリアと日本のともだち展	南北コリアと日本のともだち展実行委員会	
グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 2015 本会議 広島・東京大会	グローバル・ネクストリーダーズフォーラム学生本部	
社会事業創発プログラム	任意団体 IDPC	
京論壇 2015 東京セッション	京論壇 2015 東京大学実行委員会	
インドネシア - 日本 保険福祉グループワークキャンプ	医療系学生による国際協力隊 euphoria	

## かめのりスクール2015

今年度初めての試みとして、「かめのりスクール2015」が、8月21日(金)から4日間、幕張国際研修センター(千葉県千葉市)で実施されました。

「かめのりスクール2015」は、かめのり財団に関わりのある交換留学生と日本人高校生が、アクティビティやディスカッションを行うことでお互いの理解を促進し友好関係を築き、今後、より一層のアジアへの理解を深めることを目的としています。



### 「かめのりスクール1期生 交流を通しての成長」

1日目は、開会式から始まり、かめのりスクール2015の校長である、かめのり財団評議員の野村彰男さんのお話を伺いました。少し緊張気味の印象だった生徒たちですが、アイスブレイキングや、異文化理解のためのアクティビティを通して、少しずつ緊張がほぐれ、楽しそうな場面も見られました。その後、このスクールのメインイベントである翌日のオリエンテーリングの計画を各グループに分かれて行いました。留学生の中には北海道や熊本など、東京から遠く離れたところからきている生徒もいて、東京観光さながらの気分楽しく計画を立てており、東京に詳しい高校生たちがお勧めの場所を留学生の為に紹介してあげるといった場面も見られました。

2日目のオリエンテーリングでは、事前に計画した通り、「日本の大学」等、設定されたいくつかのテーマに従って計画したスポットへ、実際に生徒たちと学生スタッフだけで電車やバスを利用し訪れました。「日本の伝統を感じられる場所」として明治神宮や築地市場、「最近の文化の発信地」として、原宿や秋葉原などに行った班など、それぞれ留学生の意見に合わせた計画で、日本人高校生がたくましく見えた一日でした。

この日の夜と3日目の朝の時間を使ってそれぞれの班でオリエンテーリングの発表準備を行いました。留学生が驚いたことや、気づいたことなどを留学生自身が発表する班など、日本人高校生のみが話すことなく、留

学生本人の声で感想を聞くことが出来て、スタッフや校長先生、ゲストの方も新鮮な表情で聞いていました。この日はその他に留学生の母国紹介や、世界・アジアで働く方の講演等、今まで触れる機会のなかったことを聞くことができました。夜の懇親会では、かつてかめのり奨学生であった、大学生の川上浩市さんによる三味線の演奏の他、班ごとに考えてきた出し物を披露し、疲れを忘れ、楽しく過ごしました。

最終日にこの3日間の振り返りを行い、自身の変化や感想を発表し、最後は東京駅で別れを惜しみながらそれぞれ、帰途へとつきました。

かめのりスクール2015で一番驚いたと同時に、嬉しかったことは、日本人高校生の成長の速さでした。最初は恥ずかしさからか、あまり留学生と積極的に話せなかった子もオリエンテーリングの発表準備では率先して留学生の発表を考え、指導しており、本当に頼りになると感じました。もちろん留学生も初めての東京で驚いたことや成長できたことは多かったと思いますが、日本に来て約半年にも関わらず、みな日本語が堪能で驚きました。また、順調に留学生活を送っていることに少し安心しました。そして彼らには残り半年、更に日本語に磨きをかけ、楽しい留学生活を、高校生たちにはこれから先も世界で、特にアジアで活躍できるような国際感覚を持った大人に成長してほしいと思います。

報告：清水 淳史(かめのりスクール2015 学生スタッフ/豊田工業高等専門学校5年)



日本人高校生は英語で自己紹介

オリエンテーリングでは各グループが東京の各スポットを訪れ日本を紹介



オリエンテーリングの発表の様子



川上浩市さんの三味線演奏



校長先生も一緒に「大きなかぶ」を上演した懇親会

### 参加した留学生の声

「日本各地の友達が増えてとてもうれしかった。もっと仲良くなるためにもっと日本語を勉強しなくちゃと思った」

「皆に会ったことは良かったと思います。違う国からの留学生と日本の高校生からいろいろなことを知ることができました」

### 参加した高校生の声

「留学生の出身国に対するイメージが大きく変わりました。以前抱いていた偏見のようなものが実際に交流すると本当に違いました」

「年齢や出身国はみんな違うけど、楽しいって思ったり、面白い、いやだと思うところはみんな同じだということに改めて感じた」

# 大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会

奨学生の研究の進捗発表と交流を目的とする夏の研修交流会を石川県金沢市にて、9月13日(日)から15日(火)まで実施しました。異なる分野の研究を互いに発表し意見を交わし合うと同時に、3日間共に過ごすことでお互いを知り、友情を深め、絆と知識を深める有意義な研修交流会になりました。



ミニ講義の様子



発表の様子

## 「交流、学び、体験の場」

文：胡 新祥(コシンショウ)

われわれ関東組は北陸新幹線で東京駅から僅か3時間で金沢駅に着き、すいぶん快適な旅でした。

初日と2日目は恒例の研究発表会で、奨学生の皆さんは自分の研究課題及び進捗状況を丁寧に報告しました。研究発表にあたって、緊張したこともありますが、自分自身を再認識することにもなるので、大変有意義でした。また奨学生の皆さんはそれぞれ研究分野が違うので、知識や視野を広める貴重な学びの場でもあります。姜民護さんの『親が離婚した子どもへの福祉』とか、周鑫さんの『独占禁止法について』など、いずれも大変勉強になっています。そして、研修交流会を通して、自分の努力の方向を発見できたと思います。例えば、姜哲敏さんのミニ講義は内容も進め方も良く、非常に完成度が高いです。

3日目は金沢で当地見学、長町武家屋敷通りや、兼六園など、金沢の古き良きところを満喫できて、日本への愛をまた一層増しました。歴史と現代との調和という点で大変感銘を受けました。

## 「学問に情熱を傾ける」

文：金ボラ(キムボラ)

1日目、2日目の研究発表会では、各奨学生による研究報告及びミニ講義が行われました。その分野は社会福祉、文学(新漢語)、法学(憲法・独占禁止法・労働法)、教育学、経済学(計量・開発)など多岐にわたりました。

研究報告では、各奨学生の研究内容の共有は勿論、異なる分野の新たな視点からくる鋭い質問、フィードバック、アドバイスも活発にかかわされました。各研究内容は学問の世界にとどまらず、我々が直面している社会問題を研究者の視点から分析したものになっており、日中韓をはじめとするアジア地域、更には全世界が抱えている社会問題に関する議論も行われました。

また、ミニ講義では、博士課程2年目の3人が自分の研究分野の基礎的な内容を皆に教える機会が設けられ、発表者にはプレゼンテーションの練習になり、聴衆には他分野の知識が学べる貴重な時間となりました。

互いの研究分野・内容のある程度把握している状態で行われる通常の学会とは違って、所属大学、国籍、研究分野など様々なバックグラウンドを持つ奨学生同士で議論することができ、とても良い刺激になったと思います。



金沢弁をしゃべる自動販売機と



### 【夏の研修交流会 参加者リスト】

- 姜 民護 (カンミンホ / 韓国 / 同志社大学)
- 周 鑫 (シュウキン / 中国 / 一橋大学)
- 胡 新祥 (コシンショウ / 中国 / 立教大学)
- 姜 哲敏 (カンチョルミン / 韓国 / 筑波大学)
- 洪 驥 (コウキ / 中国 / 早稲田大学)
- 周 静 (シュウセイ / 中国 / 京都大学)
- 蔡 睿 (サイエイ / 中国 / 名古屋大学)
- 金 ボラ (キムボラ / 韓国 / 東京大学)

## 高校生短期留学交流プログラム

公益財団法人 YFU 日本国際交流財団の実施により、5名の高校生が8月に韓国を訪問しました。約1ヵ月間、ホストファミリーとともに生活をし、語学研修、文化施設視察のほかに、現地の高校に通学し、同世代と学校生活を送る貴重な体験をしました。奨学生のことばをいくつか紹介します。

■ 実は、反日感情があったらどうしようと思っていました。だけど全くそんな人はいなくて、むしろ、“私日本大好き”とか“日本へ旅行し

たい”とたくさん言ってくれて本当にうれしかったです。

■ ホストシスターとは2回くらいケンカになってしまいました。でも、ケンカができるくらい私が韓国語を話せるようになったわけだし、仲良くなれたからケンカになったんだと思います。

■ 1ヵ月という短い期間でしたが、自分の目を見て、体験できたことが多く、自分の知らなかった韓国を見ることができました。もっと勉強してまた留学したいと思いました。



出発前、目標を掲げて

## 第2回 高校生カンボジアスタディツアー

前年度に引き続き、8月13日(木)～21日(金)にて公益社団法人ユネスコ協会連盟の実施による「第2回高校生カンボジアスタディツアー」が実施されました。

いろんな思いと課題を持った高校生10名が全国から選ばれ、10日間現地カンボジアで様々な体験を経て、出発前より大きく成長してくれたことと確信しています。

日本大使館で隈丸大使に面会して人材育成の重要性を学ぶ一方、ポルポトによる知識人殺戮現場や村での生活体験などから、この国の教育の遅れが今なお発展を妨げている現実を学びました。ユネスコや世界各国からの支援が文化財保護や教育の分野で行われ成果を挙げているけ

れど、望ましい支援の在り方とはどのようなものか、高校生たちは真剣に協議しました。さらには遺跡修復に力を注ぐ日本女性が交流を企画したり、地域社会に溶け込んで活躍する姿に感銘を受けました。

「他国を理解し、人との絆を大切にすること」この姿勢こそがアジア諸国の絆を深め良好な関係を構築できる手段だとの結論に至り、3年後、彼ら全員で彼の地を訪れる計画を立てています。

報告：美作高等学校校長／津山ユネスコ協会会長 鈴木 昌徳

バイヨン寺院にて



## ISAK サマースクール2015

学校法人インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢 (ISAK) が実施するサマースクールが、2015年7月18日(土)～30日(木)の日程で行われ、31ヵ国・80人の中学生が参加。かめり財団では、ベトナム・チベット・インドネシア・モンゴルの生徒4人を支援しました。このサマースクールの特徴は、プログラムのユニークさにあります。リーダーシップ・プログラムやデザイン思考を養う授業などを通じ、自らの可能性に気づくきっかけを中学生たち

に提供することを目標としています。

7月26日にはかめり財団スタッフが授業見学し、支援した中学生と交流しました。昼食の時間には「このプログラムは、人生が変わってしまうくらい衝撃的!」、「周りを強く引っ張るタイプだけがリーダーなのではなく、色々なリーダーシップがあることを知った」といった意見が聞かれました。ISAKでしか経験できない夏を過ごした4人。これからの活躍に期待しています。



支援した中学生と懇親会で

## 海外日本語教育サポート事業

## にほんご人フォーラム 2015 (Japanese Speakers' Forum 2015)

東南アジア5カ国(インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナム)の日本語を勉強している高校生と日本の高校生、そして同5カ国の日本語教師と日本の教師が、ともに学び、交流する「にほんご人フォーラム」。

3年目の今年は、初めての海外開催です。8月6日にマレーシアのクアラルンプールに高校生24人と教師12人が集まりました。いっしょに活動する仲間は、緊張と期待が入り混じった表情で1週間のプログラムの初日をスタートしました。

## 生徒のプログラムは

高校生が「思い込み」というテーマでいろいろな課題に取り組みました。五感による、そして、習慣・体験、情報不足から来る「思い込み」についてそれぞれ考えたり、グループ内で意見を出し合ったりして考えを深めていきました。また、遊びの紹介、民族衣装のファッションショーなどのアクティビティでは、みんな打ち解けた雰囲気の中、お互いの国の理解を深めました。

指導したのはこれまでの「にほんご人フォーラム」に参加したマレーシアの教師3人です。3人の教師は生徒に真っ暗な部屋の体験をさせたり、映像を見せたり、教師が実演したりなど、生徒がより深く考えられる場を工夫し、表情豊かに日本語を使い、生徒が緊張せずに日本語を使えるようにしました。

## 教師は

自国の教育政策を前提にした日本語(外国語)教育の内容、方法について考え、具体的な授業案を作成するというプロジェクトに取り組みました。生徒プログラムでの生徒の「学び」を観察しながら、また、お互いの教授経験の共有、意見交換をしながら取り組んだプロジェクトの成果は、学習者中心をより意識した授業案、他教科や実社会とのつながりを視野に入れた授業案など、帰国後、各国で実践した後の報告が楽しみな内容でした。この実践報告は、外国語教育で何ができるかを示す例として蓄積されていくことが期待されます。

最終日の生徒の成果発表会とその後の懇親会は、マレーシアで日本語を勉強している200人以上の高校生とフォーラムに参加した高校生との交流の絶好の機会となりました。あるマレーシアの女子生徒は「日本語で話ができきた！」と興奮気味に話していました。



## 今回のフォーラムでは

食事はマレー料理、宿泊設備もマレー風という環境で実施されました。その結果、日本語だから日本が中心、という環境や意識ではなく、6カ国の教師と生徒が「にほんご人」として集まり、日本語を学び合い、日本語で各国のことや各国の人々の考え方を学び合えたのではないかと思います。海外で高校生が日本語を学んでいる現場に近い環境でのフォーラム開催であったと言えるでしょう。

懐かしい顔もありました。2年前にフォーラムにマレーシアから高校生として参加した本フォーラムの「卒業生」が大学生になって手伝いに来てくれました。当時いっしょにフォーラムに参加した生徒たちとは、今もFacebookでつながっているそうで、仲間の今の様子を嬉しそうに話してくれました。たった1週間あまりのプログラムですが、毎年継続することで、人の広がり、活動の広がりを感じさせてくれた今回のフォーラムでした。



成果発表会の様子

生徒プログラムの様子



## 「にほんご人フォーラム」とは

かめり財団と国際交流基金の共催事業です。2012年に準備会合、2013年に1回目のフォーラムが開始されました。国際社会で日本語を使って活躍する「にほんご人」がもっと増えるようにと、これからの時代に必要な能力の育成を組み込んだ外国語教育の形を創造・実践するとともに、中等教育における「にほんご人」ネットワークを形成し、日本語を媒体とした若い世代の相互理解の促進とグローバル人材の育成を目指しています。

## 海外日本語教育サポート事業 ベトナム中学生日本語キャンプ

7月28日(火)～30日(木)に今年で3回目となる「ベトナム中学生日本語キャンプ」が実施され、全国19の中学校から生徒と教師がハノイに集まりました。

今年は「自分が言いたいことを日本語で発信すること」、「他地域の人と共通の目的のために協力すること」を意識し、教師やスタッフに日本語で質問し会話をする活動や、3日間を通してグループ活動を導入しました。

2日目には、グループごとに日本語を使ったタスクでお金を集め、買い物し、「理想の学校」を制作。工夫を凝らしたユニークな学校ができました。他にも「日本クイズ」「朝の体操」「日本の遊び」と、体験を通して日本語・日本文化への理解を深め、最終日の夜には「キャンプファイヤー」で盛り上がりました。

最初は緊張した様子を見せていた生徒たち

報告：国際交流基金 ベトナム日本文化交流センター 日本語指導助手 佐々木馨

も活動を通して意気投合したようで、アンケートには「他地域の新しい友達と団結できた」という声が多く挙がりました。キャンプが終わってからも、口頭やSNSで自身の体験や感想を広める様子も見られます。

キャンプへの参加を目標に日々の学習に励む生徒も増えています。このイベントをきっかけとし、日本語・日本文化への関心が深化・拡大することを期待しています。

けんけんずもう



「理想の学校」完成

### 奨学生のことば 体験レポートの中から、印象に残る文を紹介します。

ホストファザーは英語の勉強に興味を持っているようなので、彼は私に日本語と英語で話しています。ホストファミリーは私にいろいろな日本の文化・伝統的な日本の伝説を教えてくださいました。お返しに私はマレーシアのことを話しています。ホストファミリーは忙しい生活を送っているのに、私を歓迎して、まるで自分の娘であるように扱ってくれています。

2015年3月来日、福井県内の高校に通学  
マレーシア Ms. Tan Sher Lynn

タイではバイクで学校に行きます。自転車ではありません。でも日本の学校はそのギャクで、ここは教室でご飯を食べられて、部活はほとんど毎日があって、自転車は人気者みたいです。今、日本のことなれました。日本が大好きです。今私の日本語はまだおかしいけど、もっと頑張ります。

2015年3月来日、熊本県内の高校に通学  
タイ Ms. Sookrada Saesueng

高校生交換留学プログラム（長期受入生）の留学レポートから抜粋。全文はかめのり財団ホームページから閲覧できます。是非ご覧ください。

### 今後の予定

- 11月 第7回中学生交流プログラム派遣実施(タイ)
- 1月 かめのりフォーラム2016  
【高校生短期】韓国・中国から高校生来日
- 2月 【高校生長期】受入生帰国  
かめのり地球青少年サミット2016
- 3月 【高校生長期】受入生来日

<< 編集後記 >>

この夏、弊財団が実施／支援する事業で、日本の高校生が韓国やマレーシア、カンボジアを訪問し、また、アジアからの高校生が日本人高校生と交流した。そこで目の当たりにしたのは、彼らの成長の早さ。最初は緊張の面持ちの彼らも日を追う毎に変化し、あっという間に仲良くなるばかりでなく、自身を振り返り、成長を遂げる。彼らがこのまま成長を続け、互いが協業していける関係を構築できるような人材になることを期待したい。(松本)

発行人 / 西田 浩子

編集 / 松本 龍一

デザイン / イワチサトシ (BUTI DESIGN)

印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694

FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp

URL : http://www.kamenori.jp/